

図1. WSSV rVP26およびrVP28のSDS-PAGE泳動像
1.rVP26、2.rVP28、3.大腸菌由来タンパク質それぞれ約30%の純度であった。

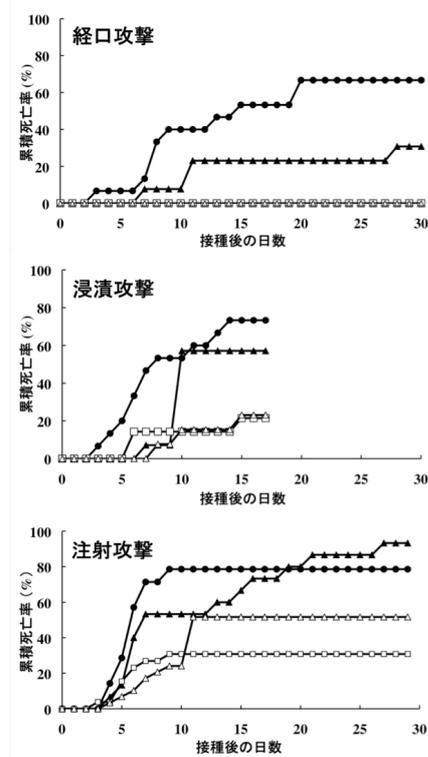


図2. WSSVの発現タンパク質rVP26およびrVP28を経口投与したクルマエビへの攻撃試験における累積死亡率の推移。
●: PBS(非投与対照)、▲: E.coli (投与対照)、□: rVP26、△: rVP28

表1. WSSV rVPsの経口投与後の試験における死亡または生残個体からのPCRあるいはnested PCRによるWSSVの検出結果

ワクチン	経口攻撃				浸漬攻撃				注射攻撃				非攻撃	
	死亡個体	nested PCR	生残個体	nested PCR	死亡個体	nested PCR	生残個体	nested PCR	死亡個体	nested PCR	生残個体	nested PCR	死亡個体	nested PCR
rVP26	-	-	0% (0/30)	6.7% (2/30)	50.0% (3/6)	83.3% (5/6)	0% (0/22)	83.3% (2/22)	9.1% (4/8)	100% (8/8)	0% (0/18)	38.9% (7/18)	0% (0/12)	0% (0/12)
rVP28	-	-	0% (0/30)	10% (3/30)	33.3% (2/6)	83.3% (5/6)	0% (0/21)	83.3% (17/21)	60.0% (9/15)	73.3% (11/15)	0% (0/14)	35.7% (5/14)	0% (0/12)	0% (0/12)
E. Coli	100% (4/4)	100% (4/4)	0% (0/9)	0% (0/9)	12.5% (1/8)	50.0% (4/8)	0% (0/6)	0% (0/6)	100% (13/13)	100% (13/13)	0% (0/1)	0% (0/1)	-	-
PBS	100% (10/10)	100% (10/10)	40.0% (2/5)	100% (5/5)	100% (11/11)	100% (11/11)	25.0% (1/4)	75.0% (3/4)	100% (11/11)	100% (11/11)	0% (0/3)	66.7% (2/3)	-	-

*: PCR or nested PCR 陽性個体数 / 供試個体数

rVPs 区の73-100%の死亡個体から nested PCR でWSSV が検出されたが、ほとんどの生残個体は陰性であった。すなわち、rVPs 投与個体群の生残エビにおけるWSSV 陽性率は、非投与群に比べ明らかに低いことが確認された。

表2. クルマエビへのVP26 および VP28 の経口投与によるWSSV人為感染に対する防衛効果について

ワクチン	n	経口攻撃		浸漬攻撃		注射攻撃		非攻撃	
		累積死亡率 (%)	RPS (%)						
rVP26	30	**0	100	28	**21	26	**31	12	0
rVP28	30	**0	100	27	**22	29	52	12	0
E. Coli	13	31	54	14	57	14	93	-	-
PBS	15	67	-	15	73	14	79	-	-

** (1% level) (χ² 検定)

累積死亡率およびRPS (有効率) は、ワクチン投与から10日後に開始した経口、浸漬および注射の攻撃試験からそれぞれ30、17および29日後に決定した。非投与対照群 (PBS 区) の累積死亡数との比較から各区の累積死亡数の有意差検定を行った。